

木曾義仲と巴御前

木曾義仲は、清和源氏の嫡流である源為義の次子である義賢の子として上野国（現在の群馬県）に生まれ、木曾（現在の長野県）で育ちました。治承五年（1181）、義仲は平氏の世を改めるべく旗挙げし、北陸での合戦を繰り広げ、平家一門を都落ちさせるに至りました。寿永二（1183）年には、平氏追討の宣旨を得ましたが、その後、従兄である源頼朝との確執から追討され、その生涯を終えました。

巴御前は、幼少の頃より義仲に付き従ったとして、女性ながらも勇猛果敢に戦う姿が、後世人気を博しました。

木曾義仲が、現在の信越地方から北陸を一時収めたことから、林氏や富樫氏も義仲に従って平氏軍と戦っています。また、源氏の武将が信奉する八幡宮に戦勝祈願を行っており、特に加賀地域の神社において、義仲が戦勝を祈願したという伝承が多く残されています。